



2016. 7月第572号

発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

榎本 恵 主幹牧師宅  
523-0877 近江八幡市池田町 5丁目 21-2  
Tel & Fax 0748-26-7469

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって事前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

「主はわたしの力、わたしの歌、主はわたしの救いとなってくださった。」(出エジプト15:2) これは、モーセに率いられて、エジプトを脱出したイスラエルの民が、目の前に広がる葦の海を、主の不思議な奇跡のみ業によって渡ることができた、その喜びたたえる詩の冒頭の言葉である。「海の歌」「勝利の歌」とも呼ばれるこの歌は、「記録された歌の中で、世界最古だろうと言う人もいる」(バイブルナビ) そうだ。もちろん、精査していけば、それがただ葦の海の奇跡だけでなく、カナンの地への侵入について歌った場面もあり、編集の手のちに加えられたのだらうというが、その研究は神学者にお任せしよう。

神の力、神の勝利、それらの言葉は、私たちを魅了する。けれどもわたしたちはそれを、よく吟味しなければならぬ。さもないと、あの喜びの歌を歌ったすぐあとに、苦い水の試練を受け、次々と不平不満をつぶやくイスラエルの民となつてしまふからだ。立ちほだかる困難、負かすことのできない敵、絶体絶命の危機、それらを前にし、わたしたちは主に助けを求め叫び、嘆く。そして運良く、その願いが叶うときは、「神様は答えてくださった」と飛び上がるほどに喜びの声を上げ、自分の思い通りにならないときは、その祈り方が弱いのではないかと、自己反省してみたり、「これは御心ではなかったのだ」と自身を納得させようとす。しかし、私はこのいずれも、違うのではないかと思う。神のみ業に一喜一憂

瞑想

主はわたしの力、わたしの歌、主はわたしの救いとなってくださった。

出エジプト15:2

主幹牧師 榎本 恵

の運動の中で、必ず歌われていた歌が、「We shall overcome (勝利を望み)」(賛美歌21 471番)だ。しかし、この歌に託し彼らが望んでいた勝利とは、一体なんであったのか。それは決して、敵に勝つこと、圧政を強いる白人たち権力者に一矢報いるということではなかった。そうではなく、憎しみと怒りの中で、神の正義と真理を疑いそうになる自分たちの不信を乗り越え克服しよう(overcome)とする勝利なのだ。私たちの勝利の歌は、願ひ事の叶うご利益でも、また、そんなものは理想に過ぎないとせせら笑う現実主義の勝利でもない。「主はわたしの力、わたしの歌、主はわたしの救いとなってくださった。」(出エ15:2) 友よ、本当の勝利とは、この不信仰の自分を乗り越えていくこと。神の国と、神の義を望みつつ、歌っていこうよ。

# 関東青年アシラムに参加して

猪野 敏子

私は、2016年5月3日から5月5日まで関東青年アシラムに参加しました。友達に誘われて参加したのですが、参加する前はアシラムの何が良いのだろうと思っていました。お喋りな私が、規則である沈黙を守るのか。アシラムが終わった後、毎日友の



のために祈れるのか。不安のある一方で、私が抱えていた心の傷が主によって癒されるのではないか。潜在的な問題に聖書を通して何らかの解決が与えられるのではないか。以上のような期待を抱えながら、私は友達と一緒に電車に乗り車に乗りアシラムの行なわれるバイブルホームに到着しました。

## 聖書を読み味わう

到着して驚いたことは、空気の清々さと外の景色が良く見える大きなチャペルに入った時の開放感です。大きなチャペルは、バイブルホームの管理をしていくのださるティアーニー先生の手作りとなりました。

## 美味しいお食事を出して下さったバイブルホームの方々、支えて

時間が静聴と呼ばれ、沈黙を守りながら自分の好きな所で行ないました。コロサイの箇所を一日目に第一章、二日目に第二・三章、三日目に第四章を静聴しました。

# 阪神一日アシラムに参加して

辻 優子

「聖書に聴き祈り従う」をアシラムでの礼拝と交わりで体験したいと参加しました。



榎本和子姉、開会礼拝中に気分悪くなり、別室にて休息。尿路感染症と診断され治療。今はお元気！感謝。

た。会場の主恩教会の番地三一一に東日本大地震の日を重ね未だ大きな痛みの中におられる方々に代わることはできない私は静まる一日を頂き今日の一日を大切に大事に過ごしたい思いを与えられました。アシラムについて殆ど知らない乍らそれでも榎本保郎牧師の神様への応答の信仰にはびっくりしてました。私の生活は日々聖書日課でみことばを開き、聴くというより読むです。賛美し折りよくに折り、主日礼拝、水曜祈禱会等に出席が許されています。今回アシラム礼拝でみことばをば一章を時間を

下さったセンターの方々に感謝。最後に皆様、是非いらして下さい！  
(日本福音キリスト教会連合 蓮田キリスト教会)

ご献金者  
敬称略  
3月分子 萬里名 良浩二  
4月分子 初子 氏雄  
内海 名 良浩二  
無金山 岩崎  
アシラム ミニ 斎藤 宇多子  
藤橋 本 渡辺 由美子  
山田 和子  
明石 シオン 康智 恵哲 子  
増枝 均 由香子  
洋教会 会  
いずみ 会  
南大 藤 村 榎 本  
榎 本 榎 本  
福岡 聖 書 教 室  
大阪 聖 書 教 室  
山 岡 義 明 雅 彦  
佐 古 渡 辺 美 寿 子  
飯 島 和 子  
山 崎 内 村 井 米 田  
米 田 森 戸 井 上  
小 林 常 任 運 営 委 員 会  
井 澤 木 村 上 沖 田  
榎 本 村 中 村 自由 メ ン ス ト  
サ ウ ー ア 教 会  
日 語 部  
長 田 光 夫  
ち ゃ ん ち ゃ ん 敬 記  
チ ャ ン 敬 記  
中 川 正 岡  
リ ッ コ 吉 田 恵 美 子  
植 松 喜 美 子  
千 歳 智 白 石  
美 志 子 京 子  
諒 子 河 田 恵 美 子  
日 本 ク リ ス チ ャ ン ア シ ラ ム 連 盟 事務局

かけて聴くこと。「しもべは聴きます。主よ、お語り下さい。」ご臨在の主を意識する。礼拝後、四・五人で家族になり聖書のみことばから届く主のお声かけを各々に分かち合い、又、各々に与えられた課題をとりなして祈り合い持ち帰り家庭での祈りで毎日、ファミリーと再会しています。

「暗闇から光の中へ。1ペトロ2:9」

主にあつては全てが最善の世界に住まわせて頂き主に感謝します。アシラムのお働きの上に主の祝福をお祈りします。

主に在りて

(西明石福音ルーテル教会)  
《筆者の御妹ご夫妻は、福岡聖書教室の友。そのご子息・伊達平和兄は、アシラム修道場の新住人となり、早天祈禱会の友。半年間、アメリカ留学に。》



# 北陸金沢アシラムの集いに参加して



無教会の集いで2、3回ご一緒した石田さんよりの熱心お誘いと、昨山中湖畔にて無教会の集いの折に参加された方から「アシラムの集いはいいですよ」と言われた言葉が心の中に残っていました。

無教会の武祐一郎先生からのテープ礼拝が途絶えてから、人と共にという場が昨年までありませんでした。昨年の無教会の集い、そして今回のアシラムの集いと参加する機会がありました。

「わたしにつながっていない。わたしもあなたがつながっている。」

ヨハネ15章4節  
今回のテーマは

「私は道であり真理であり生命である」でした。恵先生の祈り、お話を

からはじまり、ヨハネ13章を時間をかけて何回も何回も読むうちに、私に語りかける御言葉が心に響いてくるのです。そして、ファミリーという5名の与えられた方々と共にヨハネ13章をその方の方に響いてくる御言葉とかかる日常の想いを徐々に話してゆきます。

今まで聖書を学ぶという感じできませんでした。無教会では講話があり、私は聞く側であり、あーそんなのかと受け取るのです。牧師の語る御言葉を受け待っている私がある。誰かが教えてくれるだろうと期待している私がいきました。今回びっくりしたのは私がじっくり聖書と向き合う、静聴。心静かに主の御言葉を聞く。心穏やかで静かな時でした。

向き合う、静聴。心静かに主の御言葉を聞く。心穏やかで静かな時でした。

ファミリーの方々の関係も密過ぎず、風通しよく、ゆるやかな感じでした。

そしてヨハネ14章15章16章と読み進むうちに様々な御言葉が私に語りかけてきました。「心騒がせるな。神を信じなさい」ヨハネ14章1節

山を下り日常の中に帰って来た私です。恵先生がおっしゃる様に変わらないけれど、きっとそこに生きる私が少しづつ変えられ、受け取り方が変わってゆくのだろうと思います。

そして日々、聖書をただ読むのでなく、心静かに心傾けて、主の御声を聞く時となつてゆくだろうと思つています。心から感謝いたします。

- 寛博 石井
- 博子 渡辺
- 中心 センター
- 聖書教室 吉川
- 和之 沢田
- 照美 熊野
- 静岡聖書教室 安仲
- 萌子 塩沢
- 正子 井上
- 麗屋 龍屋
- キリスト教会 持田
- 裕子 喜多川
- 啓子 東京聖書教室
- 津子 西本
- かよ 松野
- 直美 堺大浜
- キリスト教会 福田
- カフェ ちひろ
- 聖書 入門講座 金井
- 百合子 大山
- 悠子 榎本
- 和子 榎本
- てる子 榎本
- チャイム・コンサート (池田)
- チャイムの会 渡辺
- サエ子 岩波
- 久一 阪神
- 一日 アシラム
- 勝康 中田
- 愛子 本名
- すみえ 吉田
- 89口 ¥899,756
- 全 義 榎 金
- すみえ 吉田
- ちひろ ちひろ
- アツちゃん・ シュラム君
- ちひろ ちひろ
- タル タオル
- (阪神一日 アシラムにて)
- 3口 ¥19,500
- 会堂 改築 榎田
- 連明 1口 ¥10,000
- 誕生感謝金 脇
- 萬里子 1口 ¥5,000
- 合計 94口 ¥934,256
- 感謝いたします



## 2016年度 アシュラムの天上の友を憶える日礼拝

見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、誰にも数え切れないほどの大群衆が、白い衣を身につけ、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と子羊の前に立って大声でこう叫んだ。 黙7：9-10

イエスは主なり

アシュラムセンター主催「天上の友を憶える日礼拝」をご案内いたします。毎年、アシュラムセンターでは、この一年間にお亡くなりになった友を、記念し礼拝することを続けてまいりました。今年も、7月24日(日)午後5時より、「ちいろば牧師記念チャペル」で執り行います。ご遺族、ご関係の皆様と共に、この先達たちを覚え、祈りを捧げる時を持ちましょう。皆様の御参列をお待ちしています。

なお、天上の友は、センターへ、ご連絡のありました方が対象でございますので、右記の方以外に皆様方の中で、2015年7月から2016年6月までの、アシュラムに関わりのある御逝去者をご存知の方がおられましたら、ご一報くださいませ。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

故人氏名 (敬称略)	召天月	出身地
志村 信夫	2015・1	名古屋
西川 四郎	2015・8	京都
丸谷 昌樹	2015・10	広島
赤井やゑ子	2015・12	三重
渡辺 博介	2016・3	大阪
岩城千賀子	2016・5・3	石川
奥川 寅夫	2016・6・7	福岡
藤井 弘	2016・6・10	北海道
須郷 幸子		東京
秋山 進		北海道
山室 裕英		埼玉
石堂 栄		埼玉

2016年 天上の友を憶える日礼拝

日時：2016年7月24日(日) PM 5:00～

場所：アシュラムセンター

「ちいろば牧師記念チャペル」

## 第2回「新修道場計画」説明会について

4月30日に神戸「ベテルの家」におきまして、開催されました第1回の「新修道場計画」説明会へは、全国各地より、18名の方がお集まり下さり、共に新たなアシュラム修道場のために祈りを合わせ、またお互いにその思いを語り合う時を持つことができました。

さて、この度第2回目といたしまして、7月23日(土)午後2時より、第2回「新修道場計画」説明会を、アシュラムセンター「アンナ祈りの家」で開催いたします。今回は、より具体的に運営、財務、建築計画のことも含め、話し合い、また祈り合おうと思っております。どうか、前回参加された方も、また新たに興味を持っておられる方も一緒に、集まる時を持ちましょう。「アンナ祈りの家」は、宿泊も可能

です。どうか翌日の「天上の友を憶える日」礼拝と合わせてご参加いただけます。主の兄弟姉妹として、アシュラムの友が、アシュラム生活を中心としながら暮らす場所を目指しております。お待ちしております。

参加ご希望の方は、アシュラムセンターまでご連絡ください。よろしく願いいたします。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

日時：2016年7月23日(土) PM 2:00～4:00

場所：アシュラムセンター「アンナ祈りの家」

連絡先：アシュラムセンター

☎ (0748) 33-4030

fax (0748) 33-8856

※7月18日までにご連絡ください。

### あとがき

6月6日から3泊4日で北海道へ行った。札幌1日アシュラムには、榎本和子姉の出版感謝会もあり、たくさんの方が集まってくれました。翌日足を伸ばし、旭川へ行き、三浦綾子文学記念館、またご夫妻の墓前に行ってきた。アシュラムセンターの働きをいつも変わらず祈り支えてくださった綾子先生、光世先生。雨の降る中、当地のアシュラムの友に案内いただき、本当に感謝であった。近江八幡に帰ってまもなく、札幌アシュラムの実行委員、吉田すみゑ姉から電話があった。藤井弘牧師が召天されたという知らせだった。札幌アシュラムが、今もこうして続けられてきたのは、先生の祈りの賜物である。アシュラム運動と祈りの細胞運動に、その生涯を全うされた先生、本当にありがとございました。

瞬きの詩人

水野源三の世界 29

三浦綾子記念文学館特別研究員  
森下 辰衛



花瓶 1976年

春には  
ヒヤシンスが生けられる  
夏には  
ききょうが生けられる  
秋には  
りんどうが生けられる  
濃紫の花が  
よく似合う  
この花瓶

母が  
天国に召される前の年の  
粉雪が降る日に  
買って来た  
濃紫の花がよく似合う  
この花瓶

源三さんの母うめじさんは、1975年2月、子宮がんで天に召されました。発見されたのは1972年で、二年後の74年に再発しました。ですから、この花瓶を買って来たと思われる1974年の1月か2月頃には、もう病はかなり進んでいたと思われます。

濃紫の花はどれもうめじさんの好きな花で、源三さんも好きな花だったのでしょう。ききょうやりんどうは他の詩にも良く出てきます。濃い紫の花には、黄色や白、赤い花やピンクの花の明るさや華やかさはないけれど、他の花にはない気品と落ち着きと深さがあります。それは母うめじさんの人柄にも近いのでしょうか。

春にも、夏にも、秋にも、濃紫の花が咲きますが、冬には花がありません。ヒヤシンスもききょうもりんどうも、実は目の前には既になくて、花のない花瓶だけが置かれてあるのを、源

三さんは今見ているのかも知れませんが、その代わり、冬には花瓶を買って来たときの母の思い出が生けてあるのです。それはどの濃紫の花よりもよく似合う気品のある花です。

再発した癌に冒されていていた母が、どんな心でこの花瓶を選び、買って来たのか、あの冬に。どんな濃紫の花もない季節に。春になればヒヤシンスが咲き、夏になればききょうが、秋にはりんどうが咲くと、信じて楽しみに待とうと思っていたのか？源三さんと一緒に待とうと思っていたのか。進む病の陰の中で。

花瓶が何色であったか、ここには書かれていません。何色でも良いのです。ヒヤシンスをヒヤシンスらしく生き生きとさせ、ききょうをききょうらしく咲かせ、りんどうをりんどうらしく美しくするのが花瓶の役目です。すべての被造物を一つ一つ慈しまれる深い神さまの手のように。源三さんから生まれてくる一つ一つの詩を慈しみ受け取り筆記する母うめじさんのペンのように。けれど、「春には…生けられる」「夏には…生けられる」「秋には…生けられる」と繰り返されるように、「生けられる」という受動態は、花だけでなく器もまた同じ。生かすための器として用いられるけれど、器が自ら花を生かすのではなく、生かそうとする方の道具として用いられる役目なのです。だから冬の間は静かに待ちます。一つ一つの季節ごとの花を生かす見えない水を内部に湛えて、うめじさんの心と一緒に静かに花を待っている器が、源三さんの目の前にはあるのでしょうか。

母が天国に召された日のことを思い出す源三さんは、母は天国にいるという確信と共に、この花瓶を買って来た日の母の姿、その心の中にも天国への道があったのだと、見出したのでしょうか。「病む母の腰さすりたし雪の夜」という句が源三さんにありますが、眠れないほどの痛みのなかで、ヒヤシンスも、ききょうも、りんどうも、まだ見ない花を生かそうとした母の心であるこの花瓶は、濃紫の花をひとつひとつ抱きしめて、なつかしい母のいる天国の花にする器なのです。

7月のアシュラムなど		8月はセンター主催の 集会休みです
1(金)	阪神ミニアシュラム (主恩教会 PM 1:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
4(月)	第42回高知アシュラム (サウスブリーズホテル AM11:00) 奉仕者 福江義史師	088-883-2087 福江義史師
4(月)	第43回松山アシュラム (道後友輪荘) 奉仕者 唄野隆師	089-983-1164 寺尾雅生師
12(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
16(土)	広野祈りの家 (兵庫・三木市志染町 PM 1:00) 奉仕者 櫻本恵師	0794-85-1147 猪瀬和子姉
18(月)	福岡一日アシュラム (和白バプテスト教会) 奉仕者 櫻本恵師	092-942-3145 矢野敏博師
21(木) 23(土)	常任運営委員のための 修道場アシュラム (アシュラムセンター アンナ祈りの家)	0748-33-4030 アシュラムセンター
22(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
23(土)	第2回新修道場計画説明会 (アンナ祈りの家 PM 2:00)	0748-33-4030 アシュラムセンター
24(日)	天上の友を憶える日礼拝・愛餐会 (PM 5:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
25(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 PM 2:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
26(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
26(火)	桜美林聖書教室 (桜美林大学 PM 2:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
27(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30) 奉仕者 櫻本恵師	075-643-2476 みんなのカフェちいろば

2016年8月のアシュラム予定	
第26回 軽井沢アシュラム	
日時	8月22日～24日(月～水)
奉仕	大門義和師
会場	長野・南ヶ丘倶楽部 会費 20,000円
申し込み	川口博司兄・光代姉 03-3607-9063

2016年9月以降のアシュラム予定	
9月19日	鹿児島一日アシュラム
9月22～24日	京浜アシュラム
9月26～27日	日光オーリーブの里アシュラム
10月3～4日	山陰アシュラム
10月7～8日	新潟一泊アシュラム
10月10日	福島浜通りアシュラム
10月14～15日	北陸・富山アシュラム
10月28～29日	愛知一泊アシュラム
11月1～2日	札幌アシュラム
11月10～12日	阪神アシュラム



## みことば

岡山聖書集会 (無教会)  
香西 信

「ことばの意味を開く(4)」  
私はずっと、「罪とは一体何か」という問いに対して一言で答えることはとても難しいと思っていました。それは、罪は様々な複雑な形態をとり、人間存在と絡み合っているからです。だからこそ、罪の問題はしばしば文学の重要なテーマになって、古今東西多くの文学者がそれと葛藤してきたのです。

けれども聖書をよく読むと、「罪とはイエスさまに対する不信仰である」と、とても単純に説明してあります。私たちが入り組んだ罪の問題に悩む時、罪の根源には神に対する不信仰があると知っていることは、罪の問題の解決策を探る上でとても役に立つと思います。

また罪とはギリシャ語で「ハマルティア」と言います。この言葉は「的はずれ」というニュアンスを持っています。中心からそれることです。最初は少しずれただけであっても、ずれたまま進み続けると、やがて取り返しのつかない、とんでもない方向に行ってしまうこと。罪とはまさにそのような方向性を持つものです。

ここで、中心とは神さまのことばです。神の子であるイエスさまです。私たちは神さまのことばを中心に歩むことによって、正しい方向に進んでいくことができます。人生の正しい方向を指し示す道しるべが神さまのことばです。この神さまのことばを信じるだけで救われるということこそ、私たちの信仰の中心です。

つまり神さまを信じないで、違うものを価値の中心に置いて生きることが罪です。そしてそれは、往々にして、人間の言葉である場合が多いのです。人間の言葉の暴力性を考えても、このことは妥当性を持つと思います。

そこで、私たちがどのように正しく生きるべきかと考える時に必ず必要になるのが、悔い改めという行為なのです。